

市制施行50周年を節目に新たなチャレンジ ～次世代学園都市、地域共生社会の実現に向けたまちづくり～

1. はじめに

東広島市は、広島県のほぼ中央に位置し、山陽新幹線、山陽本線、呉線などの鉄道網、山陽自動車道、東広島・呉自動車道、国道2号などの道路網が充実し、広島空港にも近接した、広域的に利便性が高い人口約20万人の都市です。

また、歴史・文化的な資源をはじめ、内陸部の山々や田園風景、瀬戸内海の多島美を臨む海岸線など、豊かな自然環境も有しており、中でも市の中心部である西条は、兵庫県の灘、京都府の伏見に並ぶ銘醸地として、酒の都と書いて「酒都西条」とも呼ばれ、毎年10月には「酒まつり」が盛大に開催されています。



雪の酒蔵通り

一方、市内には4つの大学があり、学生の力を地域で活かせる環境づくりに向けた取組や、DX技術を活用して経済発展と社会課題の解決を両立していく「スマートシティ」の取組を進めてきました。また、令和2年度には、広島県内の市町では初となる「SDGs未来都市」に選定されるなど、

将来都市像である「未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市」の実現を目指しています。

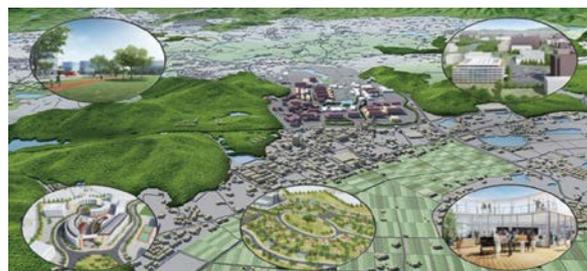
2. 次世代学園都市の構築を目指して

本市は、広島大学の統合移転決定を契機として昭和49年に誕生し、令和6年度に市制施行50周年を迎えます。

この間、大学・研究機関や先端技術産業の集積、産業基盤・高速交通網の整備などにより、多様な市民が集う人材力が豊かな都市として成長してきました。

そして、現在、本市が新たなステージへと進むため、広島大学をはじめとした本市に立地する大学と市がビジョンを共有し、イノベーションの創出により地域課題解決を図る「Town&Gown」の取組を進めています。

この取組の中で、民間企業のアイデアを取込みながら、産学官民が一体となった新しいまちづくりの構想である「東広島市次世代学園都市構想」を策定したところです。



次世代学園都市のイメージ図

また、昨年10月には、「全国Town&Gown構想推進協議会」を広島大学、島根大学、愛媛大学、



東広島市長 高垣 廣徳

呉市、出雲市、今治市などと共に設立しました。

この協議会の設立によって、今後の地方創生をけん引するモデルとなりうるTown&Gown構想をモデル化、一般化し、日本全国への展開を図るため、全国の大学及び自治体との相互連携・協力を目指しています。

本市は、今なお人口が増加している数少ない地方都市の一つですが、今後もこうした「Town&Gown」の取組や、市内に立地する国際的な半導体企業を核とした関連産業の集積等によって、着実な発展を図っていきたいと考えています。

3. 地域共生社会の実現に向けて

新型コロナウイルスの感染拡大により、我々の働き方や行動様式は、大きく変化させられました。

これまでの価値観が揺らぎ、先が見通せない中、我々は否応なく、「本当に大切なものは何か」を考えさせられました。

私は、これからのまちづくりの大きな方向性として、「新しい時代をリードする『やさしい未来都市』の実現」を掲げていますが、「市民の皆さまが、幸せを感じながら生活を送り、住みたい、住み続けたいと思えるまちの実現」を目指したいと考えています。

SDGsに掲げられた目標の一つで、生活への満足感や充実度、いわゆる「幸福度」を指す言葉として、「Well-being」という言葉が注目されています。

この言葉は、心身の健康や働きがい、社会の豊

かさなどを含めた幅広い概念で、近年は、国や地方自治体はもちろん、企業においても、活動目標や経営方針に掲げるところが増えています。

今やWell-beingをいかに実現するかが、我々にとっての、重要な価値判断基準になりつつあります。

仕事、家庭、地域での活動など、様々な社会活動が目指すものはWell-beingであり、それら多くのWell-beingがつながった先に「地域共生社会」があるのではないのでしょうか。

一人ひとりの価値観が多様化するなか、我々の働き方も、より柔軟に、より多様化してきています。立場や性別にかかわらず、子育てや介護を担う人など、誰もが安心して働ける職場環境の整備、働き方改革が、今まさに社会全体に求められています。

これから先も、色々と困難な課題に直面すると思いますが、「新しい時代をリードする『やさしい未来都市』の実現」を目指して、職員一丸となって、共に乗り越え、共に成長していきたいと考えています。



市長室にて（書家 金澤翔子さんの書）